

ひとと空間を科学する

topic
1釜石市唐丹町小白浜地区
まちづくりワークショップのお手伝い

東日本大震災により多くの住民が被害を受けた小さな漁村、小白浜地区の海辺の将来像を考えるワークショップ及びシンポジウムが10月11日～13日にかけて開催され、昨年度の夏に引き続き住居学科の学生がお手伝いさせていただきました。昨年度は2年生1名が、そして今年度は3年生3名、4年生1名が自発的に参加しました。

シンポジウムでは住居学科 葉袋准教授が日頃の研究成果をもとにした講演を行いました。また、学生は図面作成等の作業をお手伝いさせていただきました。図面の作成では日頃の学びの成果をおおいに発揮し、住民の方からご意見をお聞きしてまとめ、それをもとに公園・広場のプランを考え、きれいな図に仕上げました。参加した学生は夜遅くまで熱心に作業していました。

その甲斐があり、最終日の意見交換会では学生が作成した図をもとに活発な議論が行われました。この議論をまとめた提案書は、地区住民から市役所に提出されました。釜石市内で漁村集落住民からのこのような提案は初めてのこと。市長から前向きな言葉が得られたと、住民代表の方が喜んでくださいました。



小白浜の様子。
過去に高台移転していた家の多くは残りましたが、低地部にあった家は流されてしまいました。



アンケートや住民の方とのワークショップの成果である海岸近辺の広場等の提案について説明する学生

妹島和世先生 講演会が行われました

topic
2

11/9(土)、日本女子大学目白キャンパス成瀬記念講堂において、住居学科出身の世界的建築家・妹島和世先生(本学客員教授)の講演会を住居学科と住居の会(住居学科同窓会)の共催にて行いました。



会場の様子

講演では、先生の近作の創作の過程や空間・環境に関するお考え、そして東日本大震災の被災地支援での建築家ならではの社会貢献のありかたをうかがうことができました。

当日は、住居学科学生や卒業生のほか一般の方の参加で500人が入る講堂がいっぱいになり、質疑応答の時間には、妹島先生に直接質問できる貴重な機会ということで会場からたくさ

んの手があがりました。また、先生が建築界のノーベル賞ともいえるプリツカー賞を受賞されて以降初めておこしいただく学科内行事であったため、住居学科と住居の会より花束をさしあげてお祝いました。



妹島和世先生

課題内容

- エチオピアのラリベラという都市に、市民と観光客のための建物（カフェなど）を計画する
- その建物で行われるプログラムを立案し、特に女性などの社会的に弱い立場の人々の雇用創出を考える



◀ 学生の作品

「建築と社会」では、グループでディスカッションしながら設計する課題として「エチオピア ラリベラでの村落開発」を行いました。全5回のプログラムで、5～6名のグループが多くの討論、打ち合わせを行いながら、内容をつめていきます。

各グループがプレゼンテーションを行い、ちょうど来日中であった藤村さんによる講評を受けました。現地での可能性があるかどうか、また雇用についてのエチオピア人の考え方などについて、鋭い指摘がなされました。この授業は全教職員への公開授業でもあり、他学部の先生方も授業に参加しています。

藤村さんや先生方の意見を参考にさらに発展させて、最終プレゼンテーションが11/18に行われました。



11/11 藤村 健司氏（フー太郎の森基金 エチオピア駐在事務所所長）を迎えてプレゼンテーション

フー太郎の森基金 アフリカの人々が何よりも必要とする「水」のため、木を植えることから取り組んでいる団体
<http://futaro.org/>



11/25 ガテラ・エマニュエル・ルダシングワ氏、ルワシングワ 真美氏をお招きして

また、11/25には、今度はエチオピアでの問題だけでなく、アフリカ全般に視野を広げるため、ルワンダとブルンジでワンラブブランドを運営しながら、義肢製作で身体障がい者への支援活動を行っているガテラさんと真美さんをお招きし、特別講義を受けました。終了後も学生との熱心なトークがありました。

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト
肢装具の製作、義肢装具士の育成、障がい者スポーツの普及活動などを行っている
<http://www.onelove-project.info/>

住居学科スタッフよりひとこと

2013年度11月末に退職されました。

近藤 ふみ 助教

この度、出産・育児のため退職いたしました。助教として、皆さんの学業および学生生活のサポートをさせていただき、充実した時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。皆さんと接するにあたり、自分自身が住居学科・住居学専攻の学生であったときのことを思い出しながら、私なりに工夫して、いろいろなことをお伝えしてきましたつもりです。年度途中での退職ということになりましたが、後任の江川紀美子先生は、とても頼りになる方ですので、安心してください。

最後になりましたが、住居学科の先生方には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



新しく住居学科スタッフに加わりました。

江川 紀美子 助教

12月1日に着任いたしました江川と申します。

住居学科を卒業後、一般企業で働く経験を経て大学院に戻り、集合住宅などを中心に快適な住環境の実現に向けた研究をしてきました。このたび縁あって、助教としてお世話になることになりました。住居学科で学んだことは、社会に出ても建築の知識のみに留まらず様々な場面で力になってくれたと感じています。今度は皆さんの充実した学生生活のため、少しでも力になればと思っています。中央研におりますので気軽にお声をかけてください。これからどうぞよろしくお祈りします。

